

# 床とこ

# 鍋なべ



## 久

札坂を登り切った所が床鍋である。高南台地への入り口である。地名の由来であるが、諸説ある。その昔、弘法大師がこの地を訪れた時に、東の方角に向けて「独鋸」密教で使う仏具。金属製で両端がとがった短い棒」を投げたことから「独鋸投げ」「とこなげ」「とこなべ」となったという説や、急峻な久礼坂をやつとこのことで登り切った所に現れる平坦な場所「床滑(とこなめ)」からきているのではないかとという説。それから、半山郷(現在の葉山村)に床鍋という同じ地名があるのだが、半山郷を支配していた津野氏が勢力拡大を図る中で、半山郷床鍋から多くの移住者がこの地に来て開拓し、故郷と同じ地名をつけたのではないかとという説がある。

もともと津野、佐竹の両氏の影響力が強かった地域であるが、津野氏滅亡後は、久礼の佐竹氏の支配下になる。床鍋には永林寺というお寺があった。永林寺は、久礼の佐竹氏の菩提寺である常賢寺の末寺として建立された。ここには、戦国期の長宗我部氏による伊予出兵時の戦利品として、伊予のとある寺院の教典が納められている。佐竹氏の活躍によるものである。江戸時代に入ると、永林寺は老朽化などで、廃寺寸前になるが、地域住民の手によって元禄年間に再建を果たす。その後、老朽化による危機が何度もあったようであるが、その度に、地域住民が経済的基盤の弱さにもかかわらず、何とか再建してきた。ところが、明治の廃仏希釈によりとどめを刺されることとなる。これで永林寺の存在

は跡形もなくなったのかというと、実はそうではなかった。解体した永林寺の材木は、小野川村の簡易小学校校舎建設にあたっての建材として生き返ったのである。小野川村簡易小学校とは、現在の七里小学校である。明治9年のことであった。

さて、昭和28年、日本でテレビ放送が始まる。昭和34年に高知放送局が開局するのであるが、その直前の昭和33年のことである。「もしかしたら、七子峠なら、テレビ放送を受信できるかもしれない!」と思い立った窪川の電気店の店主が、峠付近にあなたお宅を借りて実験に挑んだ。すると実験成功。画面には開催中の高校野球の映像がくつきりと映し出されたのである。その後は、評判を聞きつけた人が殺到し、相撲中継の時などは黒山の人だかりであったという。

久礼から登ってくる旧道は、添そえ蛭むし蛭むし坂と呼ばれてきた。くねくねと蛭蛭のようにであることからそう名付けられた。その頂上付近に、弘法大師ゆかりの海月庵という庵があった。現在は、国道脇の展望スペース付近に移転され、地域住民によって大切に祀られている。

床鍋には、62世帯、130人が暮らしている。



現在の海月庵

町のうごき	(4月30日)				適正值(mg/l)				5月12日	
	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出	リン酸	硝酸	アンモニウム	アニオン活性剤
男	8,232	28	3	14	68	30	≤ 1.0	0.093	≤ 5.0	測定範囲以下
女	9,177	18	4	18	53	20	≤ 0.5	0.451	≤ 1.0	0.05
計	17,409	46	7	32	121	50	化学的酸素要求量	≤ 10.0	2.547	
世帯数	8,580	57	(4月中の届出)							
窪川地域 12,296人		大正地域 2,447人		十和地域 2,666人						

調査：大正(吾川)  
資料：四万十高校自然環境部